



4月 ボランティア活動等積極的にやっている学生を毎月クローズアップしていきます。今月は、福島県いわき市でボランティア活動を行った学生の感想文を一部紹介します。

田園調布学園大学で、ボランティア活動等を積極的にやっている学生を毎月クローズアップしていきます。今月は、福島県いわき市でボランティア活動を行った学生の感想文を一部紹介します。

人の苦しみを感じて、やっと気づくこの世はとても悲しいものだと感じました。とてもいい経験ができたと感じると同時に1人で冷静に考えた今、とても申し訳ない気持ちでいっぱいです。明日無くなるかもしれない人の命に、物に、今を何食わぬ顔して生きる私を助けてくれている人に感謝して生きていきたいと感じました。

(子ども家庭福祉学科 平成23年度卒業生)

仮設住宅では、どんな暮らしをしているのかはわからなかったけれど、福島県いわき市の仮設住宅にいらっしゃる皆さんは、大人も子どもも、ほんと笑顔がステキで逆に元気をもらいました。被災した町や中学校を見てきて、地震の怖さ、津波の怖さを目のあたりにし、ショックを隠せなかった私たちが吹き飛ばす笑顔で入って強いなと思いました。

(子ども未来学科 新2年生)

今回の福島県でボランティア活動をしてきたことを、他の人たちが3月11日に起きた地震を忘れないように、今現在の福島県の状況を伝えたいと思いました。また、私たちに今後どういった事が出来るのか、どういった支援が出来るのかなど、今回のボランティア経験を通じて様々なことが自分にもできると感じました。

(心理福祉学科 新2年生)

現地でのニーズはこれから更に変化し分化していくことになるだろう。そのニーズに柔軟に対応し、息の長いボランティア活動をしていくことが重要になってくると考える。その為にも、福祉や保育の専門職を育てる大学だからこそ、大学で学んだ知識を活用したボランティア活動を考えることで、活動内容に幅ができ、現地の方にとっても学生にとってもプラスになるのではないかなと思う。

まだまだ、物理的にも心理的にも復興していくには時間が必要である。その復興を少しでも支える存在としてボランティアがいる。今回の活動を通して、今だからこそ継続して行えるボランティアが必要なのではないかと改めて考える機会になった。

(地域福祉学科 平成23年度卒業生)

震災当時は眼を覆いたくなるような悲惨な状況が広がっていて誰が見ても「大変だ」という感想を漏らす。しかし今の町には何も無い、瓦礫は全て片付けられ、生活が流されて誰も居ない場所は、冷たくて…寂しいと感じると同時に、震災当初とは違う胸の痛みを感じた。けれども、高久第一仮設住宅に行ったときにはそんな感情は全くなく、生活があって、温かくて、まだなにも終わってはいないけれども良かったなと思う場所がそこにはあった。それを知ることが出来ただけでも、今回被災地に行って、大きな収穫だったと思う。

(社会福祉学科 新2年生)



今、自分ができるコトって何だろう？
探そう！見つけよう！
ボランティア活動で！！

みんなで変える
みんなで変わる



田園調布学園大学 ボランティア情報誌

Vol.31

発行日：2012年（平成24年）4月2日（月）
発行：田園調布学園大学 地域交流センター
〒215-8542 神奈川県川崎市麻生区東百合丘3-4-1
TEL：044-966-2780 FAX：044-966-3512
E-mail: c_center@dcu.ac.jp
ホームページ：http://www.dcu.ac.jp/region/regional01/



最新ボランティア情報

地域交流センターに届いた**最新ボランティア情報**をこちらに掲載します。詳細な情報が掲載されているチラシは、**地域交流センター**に掲載されていますので、気軽に取りに来て下さいね。**地域交流センターの場所は、2号館1Fインフォメーション隣です。**

ハンディの有無に関係なく、子ども同士の育ち合いを感じてみませんか？

- ◆内容 子どもたちの遊びや仲間づくりのサポート・見守り(散歩や公園、買い物に行ったりもします)。
- ◆日時 月～金曜日は午後1時～6時まで、土曜日は午前10時～午後4時までの都合のつく時間帯。
- ◆場所 となりのいえ(東急田園都市線市が尾駅から徒歩約10分)。
- ◆その他 交通費実費支給。
- ◆問い合わせ先 NPO法人ビッピー親子サポートネット となりのいえ TEL:045-974-0229 担当:橋本



入居者様と共に楽しい時間を過ごせる方達を待っています！

- ◆内容 粘土細工、生け花、折り紙、オセロの相手、健康体操・真向法、園芸、車椅子清掃
- ◆日時 プログラムによって異なります。主に平日行なっています(月曜日午前、第2金曜日午後など)
- ◆場所 金井原苑(小田急多摩線栗平駅より徒歩約10分)
- ◆問い合わせ先 社会福祉法人一廣会 金井原苑 TEL:044-986-1560 担当:穴吹・太田
E-mail:volu.kanafbard@gmail.com



ミニたまゆり コアスタッフ大募集

- ◆内容 子ども会議・ミニたまゆり本番の企画・運営/授業期間中は週1~2回、夏休み期間は月2回程度の定例会議に出席/担当業務の管理・調整
- ◆日時 子ども会議:10月より月1回 ミニたまゆり本番:平成25年2月10日(日)・11(月)10:00~16:00
- ◆場所 田園調布学園大学
- ◆申込方法 下記の地域交流センターのメールアドレスに学籍番号・氏名・携帯電話番号・メールアドレスを記載し、送信して下さい。後日、説明会の日程などを送ります。
- ◆問い合わせ先 田園調布学園大学地域交流センター TEL:044-966-2780
E-mail:c-center@dcu.ac.jp ホームページ: <http://minitamayu.jp/>



ミニたまゆりとは

ドイツのミニ・ミュンヘン子どものまちを参考に、川崎市麻生区にある田園調布学園大学が地域の子どものために開催しているイベントです。ミニたまゆりに参加した子どもたちは、自分たちの力で町を運営します。町には、市役所・銀行などの公共施設、様々な製品を製作する工場や食事を提供するお店、ボーリング・射的などのゲームを楽しむための娯楽施設など様々なお店(仕事)が用意されており、子どもたちは自分の好きなお店で仕事に従事します。仕事を体験した子どもたちにはお給料が支払われ、税金を徴収し残ったお金で、買い物・食事・ゲームに参加するといったサービスを受けることができます。子どもたちは、このような町作り体験を通して労働の喜び、お金の大切さなど、社会のしくみを楽しみながら学びます。※子どもたち、保護者、見学者等、計2,700人が来場し、神奈川県知事、川崎市長も視察に訪れるビックイベントです。

今月号は、本学が春休み中に行なった被災地支援ボランティアを報告します!!



ボランティア活動報告

2月26日(日)に福島県いわき市で復興支援活動を行いました。

今回の活動は、引率者が教職員2名と協力研究員1名、学生が人間福祉学部から6名、子ども未来学部から7名の計16名が参加しました。

本学では、平成23年4月よりDCU東日本復興支援プロジェクトを開始し、ボランティア養成講座の開催、ボランティア活動の情報提供・助言・把握、学生有志活動(募金活動、避難所支援活動など)の支援を行ってきました。そして、今回そのプロジェクトの一環として、また東北地方の復興に貢献するために、復興支援活動を行いました。

活動の内容は、被災地へ初めて行く学生も多いため、午前中はいわき市内で一番被害が大きかった地域を視察しました。全ての学生が言葉が失い、今回の大地震の凄まじさを改めて知る機会となりました。



また、今回視察途中で、「ガレキに花を咲かせよう」というプロジェクトを行なっている方々に偶然出会い、一緒に壁に花の絵を描きました。

午後は仮設住宅の集会所で「こどもミニ縁日」を開催しました。綿菓子、ストラックアウト、ネイルサロン、射的、缶つま、もぐらたたき、スーパーボールすくいなどの手作りの店が並び、活動



終了時間まで子どもたちの歓声が絶えませんでした。学生たちも子どもたちと接し、多くのことを学べたようです。この活動には、約40名の子どもたちと保護者が参加しました。また、仮設住宅の会長様やいわき市社会福祉協議会の職員の方も縁日の様子を視察されました。

この活動を通して、学生リーダーを務めた地域福祉学科4年生の川崎麻依さんは「他学科・他専攻の学生が集まり、それぞれの長所を発揮し、活動ができました。学生である自分たちが今できることを、現地の方々と共に行っていきたいと、改めて考える貴重な機会になりました。今後も、形に囚われず、ニーズに合わせた柔軟な活動をしていきたい」とコメントしていました。



3月11日(日)に募金活動が行われました。

本学の学生が中心となり活動している「東北地方太平洋沖地震神奈川学生ネットワーク」が新百合ヶ丘駅前午後0時から午後3時まで募金活動を行いました。この団体は、平成23年度卒業生の藤川雅大さんにより立ち上げられ、今回で4回目の活動です。集まった募金(10万2千円)は、中央共同基金회에全額寄付しました。

